

知っていますか水産普及情報

宗谷地区
水産技術
普及指導所

◆写真で見える普及指導所の活動 (353)

漁業資源の持続的な利用を目指して

当指導所は日本海からオホーツク海にまたがる北海道の「つべん」に位置し、稚内、宗谷、猿払村の三つの漁業協同組合を対象に普及活動を行っています。今回は稚内漁協を対象に行っている普及活動について幾つか紹介します。

一つ目は、なまこ桁網漁業についてです。桁なまこ部会はかつて

漁獲量の増加に伴い、資源量が低下の時代を経験しました。その後、部会と漁協、指導所が協議を重ね、操業日誌調査や漁獲物調査の他、漁業者も測定に参加する資源調査を行う体制を作り上げ、今では資源状況をモニターしながら操業するようになりました。また、部会では資源増殖を目的に、漁業者自らがなまこの簡易採苗を行っています。毎年の採苗結果や

飼育時の問題を漁業者と協議しながら、操業と両立できる範囲での安定した種苗生産を目指しています。以前は採卵量が安定しない問題がありました。が、「漁場によって吐き出す卵の様子が異なる」という漁業者の意見を元に成熟度調査を行った結果、漁場毎に成熟度に差があることが分かり、より効率的な採卵ができる兆しが見えてきました。

二つ目は、ほっきがい桁網漁業についてです。稚内漁協では稚

咲内、抜海、港内、声問の四地区で操業前に、資源量調査を行っています。各地区で漁業者とともに殻長の測定を行い、漁業者が感じたその年の漁場の様子やホツキガイの資源状況を把握しています。水揚げの三割ほどをホツキガイが占める稚咲内地区では、近年、漁業者の高齢化から従来の調査方法では負担が大きいため相談を受け、継続可能な調査にするため調査区画の統合を行い、

調査負担を軽減しました。調査で得られた推定資源量は漁獲上限の設定に活用されています。

三つ目は、ぎんなんそう漁業についてです。稚内では近年アカバギンナンソウの生育不良が発生しており、多くの漁場でホンダワラ類の繁茂が目立つようになってきています。そのため、試験区を設け、雑海藻駆除を漁業者とともに

行い、駆除の有無などによってアカバギンナンソウの生育、繁茂状況が改善するかを水産試験場の協力を得ながら検証しています。

指導所では今後も沿岸域の漁業資源を持続的に利用するため、漁業者とともに適切な資源管理や増殖手法を見いだしながら地域の状況に合った普及活動を続けていきます。



▲漁業者と行うなまこの重量測定



▲なまこの抱卵確認



▲浮上しているなまこ幼生を回収する漁業者



▲部会および関係機関で行っているホッキガイの測定



▲アカバギンナンソウ漁場の雑海藻駆除